

## 題下注の「時」をめぐって

—『白氏文集』の自注に関する研究(一)—

【キーワード】白居易、白氏文集、南宋紹興本、題下注、時

本稿は、筆者が最近取り込んでいる「慧蓴鈔南禅院本白氏文集の復元に関する研究」の一環である。前稿の「白居易元和四年作『新樂府』之歌辭形態及其所用樂曲考」では、現存する「新樂府」諸本にみられる詩題・題下注・詩注などは、「新樂府」の原貌ではなく、後人による竄入であると指摘した<sup>(1)</sup>。本稿は、引き続き南宋紹興本『白氏文集』(中華再造善本)を底本とし、「新樂府」(卷三・卷四)以外の諸卷にみられる題下注を整理して考証を加え、『白氏文集(詩集)所見題下注校考一覽表』を作成して本稿末に掲載する。

さて、「一覽表」に基づき、現存する『白氏文集』に見られる題下注に対して総合的かつ俯瞰的な検討を加えると、現存する『白氏文集』の諸本には、

- (1) 詩題と題下注との混同
- (2) 宋代文人によって竄入された偽注
- (3) 白詩を他人の詩とする誤認

陳 獅

(4) 他人の詩を白詩とする誤認

(5) 白詩作品番号の再編成と編年の訂正

など、従来の研究に看過されてきた問題が多く存在していることが浮上してきた。なお、紙幅の関係上、本稿は、ひとまず「一覽表」を踏まえて、「時」という注釈の文型を手掛かりとし、(1)の詩題と題下注との混同という問題の解明を試み、②③④⑤などの問題に関する説明は、他稿に譲る。

—

すでに「一覽表」に示しているように、「時」という文型の題下注は、合わせて四十七例にも達する。つまり、このような文型の題下注は、前集後集にわたって、白居易が一貫して施した最も重要な題下注の一形式であるに違いない。ちなみに、紹興本『白氏文集』に見られる該当類型の題下注は以下の通りである。

- ①（卷一） 觀刈麥時爲盩厔縣尉
- ②（卷一） 京兆府新栽蓮時爲盩厔尉赴府作
- ③（卷五） 松齋自題時爲翰林學士
- ④（卷六） 自題寫真時爲翰林學士
- ⑤（卷七） 秋日懷杓直時杓直出牧潯州
- ⑥（卷九） 思歸時初爲校書郎
- ⑦（卷九） 祇役駱口驛喜蕭侍御書至兼睹新詩吟諷通宵因寄八韻時爲盩厔尉
- ⑧（卷十） 憶洛下故園時淮汝寇戎未滅
- ⑨（卷十一） 宿溪翁時初除郎官赴朝
- ⑩（卷十二） 東墟晚歇時退居渭村
- ⑪（卷十三） 戲題新栽薔薇時尉盩厔
- ⑫（卷十三） 早春獨游曲江江時爲校書郎
- ⑬（卷十三） 江南送北客因憑徐州兄弟書時年十五
- ⑭（卷十三） 江樓望歸時避難在越中
- ⑮（卷十三） 冬夜示敏巢時在東都宅
- ⑯（卷十四） 重題西明寺牡丹時元九在江陵
- ⑰（卷十四） 獨酌憶微之時對所贈盞
- ⑱（卷十四） 王昭君二首時年十七
- ⑲（卷十五） 酬盧秘書二十韻時初奉詔除贊善大夫
- ⑳（卷十五） 重過秘書舊房因題長句時爲贊善大夫
- ㉑（卷十五） 和元八侍御昇平新居四絕句時方與元八卜鄰
- ㉒（卷十六） 寄蘄州簞與元九因題六韻時元九隸居
- ㉓（卷十六） 醉中戲贈鄭使君時使君先歸留妓樂重飲
- ㉔（卷十七） 劉十九同宿時淮寇初破
- ㉕（卷十七） 送韋侍御量移金州司馬時予官獨未出
- ㉖（卷十八） 寄微之時微之爲虢州長史
- ㉗（卷十八） 奉酬李相公見示絕句時初聞國哀
- ㉘（卷十九） 寄山僧時年五十
- ㉙（卷十九） 慈恩寺有感時杓直初遷居敬方病
- ㉚（卷十九） 七言十二句贈駕部吳郎中七兄時早夏朝歸獨處偶題此什
- ㉛（卷二十一） 六年春贈分司東都諸公時爲河南尹
- ㉜（卷二十二） 和寄問劉白時夢得與樂天方舟西上
- ㉝（卷二十二） 游坊口懸泉偶題石上時爲河南尹
- ㉞（卷二十三） 答微之見寄時在郡樓對雪
- ㉟（卷二十五） 華城西北雉堞最高崔相公首創樓臺錢左丞繼種花果合爲勝境題在雅篇歲暮獨遊悵然成詠時華州未除刺史
- ㊱（卷二十六） 戲答皇甫監時皇甫監初喪偶
- ㊲（卷二十七） 題崔常侍濟上別墅時常侍以長告罷歸今故先報泉石
- ㊳（卷二十八） 府齋感懷酬夢得時初喪崔兒夢得以詩相安云從此期君比瓊樹一枝吹折一枝生故有此落句以報之
- ㊴（卷三十） 酬牛相公宮城早秋寓言見示兼呈夢得時夢得有疾
- ㊵（卷三十一） 六年冬暮贈崔常侍晦叔時爲河南尹
- ㊶（卷三十二） 寄楊六侍郎時楊初授戶部予不赴同州

④② (卷二十三) 宿香山寺酬廣陵牛相公見寄來詩云唯溪東都白居士月明香積

問禪師時牛相三表乞退有詔不許

④③ (卷二十三) 同夢得酬牛相公初到洛中時牛相公辭罷揚州節度就拜東都留守

④④ (卷三十五) 歲暮病懷贈夢得時與夢得同患足疾

④⑤ (卷三十六) 夢上山時足疾未平

④⑥ (卷三十六) 和敏中洛下即事時敏中爲殿中分司

④⑦ (卷三十六) 喜入新年自詠時年七十一

また、卷十に収録の「別行簡」詩は、紹興本において題下注が施されていないものの、系統の異なる明代馬元調本（左図1を参照）に「時行簡辟盧坦劍南東川府」という題下注が存在している。「時」という文型からみると、この題下注は、紹興本が刊刻された際に誤って脱落した白居易の自注であると推定できる。

一方、紹興本巻五に収められている「常樂里閑居偶然十六韻兼寄劉十五公興王十一起呂二旻呂四類崔十八玄亮元九稹劉三十二敦質張十五仲方時爲校書郎」（左図2を参照）という詩題の末尾に、「時爲

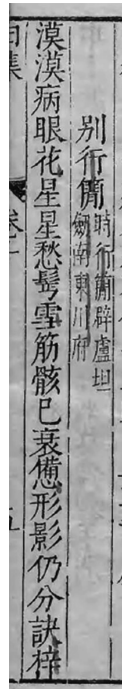


図1

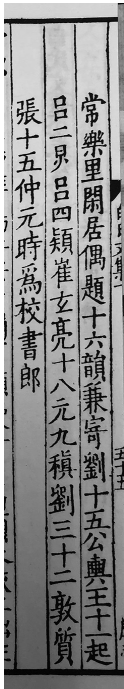


図2

校書郎」という五文字が見える。この「時爲校書郎」は、詩の中「小才難大用、典校在秘書（小才 大用し難く、典校 秘書に在り）」と対応し、白居易自身を指す言葉であると考えられる。また、現存する白詩の詩題本文の中に、「時爲」という言葉がみられるのはこの一例に過ぎず、他の十例はいずれも題下注である（前掲①②③④⑦⑫⑯⑳㉑㉒㉓㉔）。よって、この五文字は、白居易自編文集の際に、元々は小字の題下注であったと推定できる。<sup>②)</sup>

## 二

王海棻氏の考証によれば、「時」とは、「当時」、「この時」という過去形のテンスを表す文型である<sup>③)</sup>。つまり、これらの題下注は、白居易が当の詩作を読み綴る際に書き添えた注ではなく、詩集を編成した際に統一した書き方で補入したものである。わざわざ題下注を追記するということは、これらの詩作が白居易にとっても忘れ難いものであったのだろう。換言すれば、これらの詩作は、白居易自身によって認定された最重要作品であるとも考えられる。

しかも、このような追記は、詩題に限らず、詩の本文の自注としても多く使用されている。試みに検索したところ、合わせて十例が見える。

① (卷十二・和錢員外答盧員外早春獨遊曲江見寄長句) 此時我亦閉門坐、一日風光三處心雲夫蔚章同年及第時予與蔚章同在翰林。

② (卷十三・代書詩一百韻寄微之) 策目穿如札時與微之結集策略之目其

數至百十、毫鋒銳如錐時與微之各有纖鋒細管筆搗以就試相顧輒笑目爲毫錐。

- ③（卷十六・東南行一百韻）江關未徹警、淮寇尚稽誅時淮西未平路經襄鄂二州界所見如此。

- ④（卷二十・湖上招客送春汎舟）兩瓶簪下新求得、一曲霓裳初教成時崔湖州寄新簪下酒來樂妓按霓裳羽衣曲初畢。

- ⑤（卷二十四・夜聞賈常州崔湖州茶山境會想羨歡宴因寄此詩）自歎花時北窗下、蒲黃酒對病眠人時馬陸損腰正勸蒲黃酒。

- ⑥（卷二十五・答尉少監水閣重宴）聞道經營費心力、忍教成後屬他人時主人欲賣林亭。

- ⑦（卷二十六・送河南尹馮學士赴任）謾誇河北操旄鉞、莫羨江西擁旆旌時新除二鎮節度。同州官吏放歸。

- ⑧（卷三十二・詠懷）尚平婚嫁了無累、馮翊符章封却還時阿羅初嫁及同州官吏放歸。

- ⑨（卷三十五・酬夢得貧居詠懷見贈）日望揮金賀新命、俸錢依舊又如何時夢得罷賓客除秘書丞略同故云。

- ⑩（卷三十五・早熱）若爲當此日、遷客向炎洲時楊季二相各貶潮陽。

よって、以上の詩の自注も、詩を作成する際に書き添えた注ではなく、後日詩巻を編成する際に追記したものであることが推定でき。つまり、「時～」という注が施される文章に含まれている情報は、白居易自身しか知り得ないものであるため、これらの注は、ほぼ間違いない白居易が自身の詩巻を編成する際に追記したものであると考えて妥当であろう。

また、五十卷『白氏長慶集』は、白居易ではなく、元稹が自分の文学理念に基づき分割・編成した文集であるという考えを呈している学者もいる<sup>(4)</sup>。しかし、「時～」をはじめとする文集編成の際に追記した各類型の題下注から見ると、この説は成立し難い<sup>(5)</sup>。つまり、五十卷『白氏長慶集』を編成する際に、元稹が一定の役割を果たしたのは否めないが、あくまで詩巻の清書や文字校勘、装幀などの作業工程に止まると思われる。これについては、すでに元稹自身も明言しているが<sup>(6)</sup>、今後は、詩巻を編成した後の清書段階に加えられる「自此後（已後）～」という詩題注の究明と合わせ、その詳細を明らかにする予定である。

### 〔注〕

- (1) 『表現技術研究』第十七号（二〇二二年三月）所収。なお、白居易自編七十卷本『白氏文集』を復元して研究を行う可能性については、拙稿「慧粵鈔南禪院本『白氏文集』の復元に関する研究―卷一について―」（『中国學研究論集』第四十号、二〇二二年九月）を参照されたい。
- (2) 管見の限りにおいて、白氏文集の各校注本の中に、該当箇所を詩題注として記したのは、岡村繁編著『白氏文集二上』（二宮俊博担当、明治書院、二〇〇七年）のみである。
- (3) 王海榮『古漢語時間範疇詞典』（安徽教育出版社、二〇〇四年）三四一頁「時」の3を参照。その解釈は以下の通りである。「1

- 時間、時候。①八月甲午、晉侯圍上陽、問於卜偃曰、吾其濟乎。對曰、克之。公曰、何。〔左傳・僖公五年〕②丙子旦、日在尾、月在策、鶉火中、必是也。〔左傳・僖公五年〕③宋景公之、熒惑在心。〔呂氏春秋・制樂〕④季度、三個月爲一季。⑤謂其三不害、而民和年豐也。〔左傳・恒公六年〕⑥聖人不能、而能以事適。事適於者、其功大。〔呂氏春秋・召類〕⑦當時、這時。⑧天下饑荒、競爲盜賊。〔後漢書・循吏列傳・王渙〕⑨東嶺而南更五里、即秦人洞。霧影漸開、遂南循山峽行。〔徐霞客游記・西南游日記二〕。
- (4) 盧旭「詩集十五卷から『白氏長慶集』の詩卷へ―白居易と元稹の編集理念の違い」〔日本中國學會報〕第七十三集、二〇二二年を参照。
- (5) 時間関連の題下注を整理してみれば、時系列に従って概ね以下の三種類に分けられる。①詩を創作する際に書き加えた題下注。例えば、卷十三「酬哥舒大見贈」の「去年与哥舒等八人同共登科第今敘會散之愁意」など。②詩巻を編纂した際に特定の詩に対して、「時」という文型を追記する題下注。③詩巻の原稿を編成したのち、清書の段階で、卷一「放魚」の「自此後詩到江州作」のよくな「自此後(已後)」という文型を書き添え、あらかじめ詩群を区切る。
- (6) 元稹「爲樂天自勘詩集。因思頃年城南醉歸、馬上遞唱艷曲、十餘里不絶、長慶初俱以制誥待宿南郊齋宮、夜後偶吟數十篇、兩掖諸

公泊翰林學士三十餘人驚起就聽、逮至卒吏、莫不衆觀、群公直至侍從、行禮之時、不復聚寐、予與樂天吟哦、竟亦不絶、因書樂天卷後。越中冬夜風雨、不覺將曉、諸門互啓關鎖、即事成篇」〔元氏長慶集〕卷二十二、文學古籍刊行社、一九五五年)に記されているように、元稹が『白氏長慶集』を編纂する際に担当した主な作業は、一からの編纂ではなく、あくまで白居易から送られた「樂天卷」を、誤字脱字の校「勘」するに止まることかわかる。なお、周相録氏は、『元稹集校注』(上海出版社、二〇一一年)に、本詩は、元稹が長慶四年に『白氏長慶集』を編纂した際に作成したものであると指摘している。

白氏文集（詩集）所見題下注校考一覽表

●本表以南宋紹興本《白氏文集（詩集）》（中華再造善本）為底本，文字異同處如有必要適當地參照現存諸本及江戶文人書入那波本。又，本表在製作及考證之時，主要參考了朱金城《白居易集箋校》（上海古籍出版社1988年）及謝思煒《白居易詩集校注》（中華書局2006年）。表中詩題番號，卷五後所記前為謝思煒號碼，後為花房英樹號碼。題下注旁所標○番號為與本文對應之“時～”號碼。

●本表所整理的題下注，不包括諸如“二首”或“並序”等。又，卷三、卷四所錄《新樂府》，筆者已有專文考證（《白居易元和四年作〈新樂府〉之歌辭形態及其所用樂曲考》，《表現技術研究》第17號，2022年3月），此處亦予以省略。

卷數	番號	詩題	題下注	製作年	考證	
古調詩・諷諭	卷一	0006	觀刈麥	時為盩厔縣尉①	元和二年 (807)・盩厔	
		0007	題海圖屏風	元和己丑年作	元和四年 (807)・長安	
		0012	京兆府新栽蓮	時為盩厔尉趨府作②	元和二年 (807)・長安	
		0027	酬元九對新栽竹有懷見寄	頃有贈元九詩云：“有節秋竹竿。”故元感之，因重見寄。	元和五年 (810)・長安	
		0031	白牡丹	和錢學士作		
		0041	鶯詩示劉叟	叟有愛子，背叟逃去，叟甚念之。叟少年時，亦嘗如是。故作《燕詩》以諭之矣。		陳按：馬本為詩序。
		0053	丘中有一士	命首句為題二首		
		0057	蝦蟆	和張十六		
		0059	放魚	自此後詩到江州作		
古調詩・閑適	卷二	0078	秦中吟・傷友	又云傷苦節士。		
		卷五	0173・0175	常樂里閑居偶然十六韻兼寄劉十五公與王十一起呂二巽呂四顛崔十八玄亮元九稭劉三十二敦質張十五仲方時為校書郎		貞元十九年 (803)・長安
	0179・0181		招王質夫	自此後詩，為盩厔縣尉時作	元和元年 (806)・盩厔	
	0187・0189		聽彈古渌水	琴曲名	元和二年 (807)・長安	
	0188・0190		松齋自題	時為翰林學士③	元和三年 (808)・長安	
	0192・0194		松聲	修行里張家宅南亭作		
	0199・0201		寄李十一	建	元和元～二年 ・盩厔	
	0205・0207		贈能七	倫		
	0207・0029		題贈鄭秘書徵君石溝溪隱居	鄭生嘗隱天台，徵起而仕。今復謝病，隱於此溪中。		
	卷六	0226・0229	自題寫真	時為翰林學士④	元和三年 (810)・長安	
		0227・0230	遣懷	自此後詩在渭村作	元和六～九年 ・下邳	
		0245・0248	九日同登西原宴望	同諸兄弟作	元和七年 (812)・下邳	
		0262・0265	酬張十八訪宿見贈	自此後詩為贊善大夫時所作	元和九年 (814)・長安	
		0271・0274	舟行	江州路上作	元和十年 (815)・江州路	



古調詩・感傷	卷七	0274・0277	題潯陽樓	自此後詩江州司馬時作	元和十～十一年・江州	
		0299・0302	題元十八溪亭	亭在廬山東南五老峰下	元和十二年(817)・江州	
		0302・0305	白雲期	黃石巖下作	元和十三年(818)・江州	
		0317・0320	秋日懷杓直	時杓直出牧澧州⑤	元和十二年(818)・江州	
	卷八	0334・0337	過駱山人野居小池	駱生棄官居此二十餘年	長慶二年(822)・杭州路	
		0342・0345	感舊紗帽	帽即故李侍郎所贈	長慶二年(822)・杭州路	
		0352・0355	初領郡政衙退登東樓作	自此後詩到杭州後作	長慶二年(822)・杭州	
		0375・0378	洛下卜居	余罷餘杭守，得天竺兩石，華亭一鶴，同載而歸。	長慶四年(822)・洛陽路	陳按：宋本失題注。
		0376・0379	洛中偶作	自此後在東都作	長慶四年(822)・洛陽	
	卷九	0390・0398	傷楊弘貞	鶴作蛇	元和二年～八年・長安	陳按：此與詩末注“復徒然一作今復然”均為竄入宋人校勘語，非原注。
		0395・0398	曲江早秋	三年作	元和二年(807)・長安	陳按：諸本同，唯汪本改“二年作”，朱、謝從。當從原注，繫為元和三年作。
		0396・0399	寄題整屋廳前雙松	兩松自仙遊山移植縣廳	元和二年(807)・長安	元和三年
		0397・0400	翰林院中感秋懷王質夫	王居仙遊山	元和三年(808)・長安	
0414・0417		曲江感秋	五年作	元和四年(809)・長安	元和五年	
0418・0421		初與元九別後忽夢見之及寤而書適至兼寄桐花詩悵然感懷因以此寄	元九初謫江陵	元和五年(809)・長安		
0419・0422		和元九悼往	感舊蚊幃作	元和五年(809)・長安		
0424・0427		思歸	時初為校書郎⑥	貞元十九年(803)・長安		
0432・0435		祇役駱口驛喜蕭侍御書至兼睹新詩吟諷通宵因寄八韻	時為整屋尉⑦	元和元年(806)・整屋		
0437・0440		惜栢李花	花細而繁，色艷而黯，亦花中之有思者。速衰易落，故惜之耳。	元和六～十年・下邳		
0442・0445	感逝寄遠	寄通州元侍御、果州崔員外、澧州李舍人，鳳州李郎中	元和十一～十三・江州			
卷十	0446・0449	寄元九	自此後在渭村作	元和七年(812)・下邳		
	0459・0462	別行簡			陳按：馬本、《唐音統籤》、汪本題下注：時行簡辟廬坦劍南東川府。	

		0483・0486	寄楊六	楊攝万年縣尉。予為贊善大夫。	元和九年(814)・長安	
		0486・0489	別李十一後重寄	自此後江州路上作	元和十年(815)・江州路	
		0495・0498	夜聞歌者	宿鄂州	元和十年(815)・江州路	
		0496・0499	江樓聞砧	江州作	元和十年(815)・江州	
		0498・0501	憶洛下故園	時淮汝寇戎未滅⑧	元和十一年(816)・江州	
		0521・0524	答元郎中楊員外喜烏見寄	四十四字成	元和十三年(818)・江州	
卷十一		0523・0526	過昭君村	村在歸州東北四十里	元和十四年(819)・忠州路	
		0562・0565	宿溪翁	時初除郎官赴朝⑨	元和十五年(820)・長安路	
		0564・0567	西掖早秋直夜書意	自此後中書舍人時作	長慶元年(821)・長安	
歌行曲引・感傷	卷十二	0583・0586	東壑晚歇	時退居渭村⑩	元和六～九年・下邳	
		0588・0591	放旅雁	元和十年冬作	元和十年(815)・江州	
		0589・0592	送春歸	元和十一年三月三十日作	元和十一年(816)・江州	
		0592・0595	真娘墓	墓在虎丘寺	寶曆元～二年・蘇州	謝校：白氏文集前集所收作品止於長慶四年，此詩或為長慶中途經蘇州時作。
		0603・0607	醉歌	示妓人商玲瓏	長慶三年(823)・杭州	
律詩	卷十三	0605・0609	和鄭方及第後秋歸洛下閑居	同高侍郎下，隔年及第。	貞元十七年(801)・洛陽	
		0606・0610	與諸同年賀座主侍郎新拜太常同宴蕭尚書亭子	座主與蕭尚書下及第。得羣字韻。	貞元十七年(801)・洛陽	
		0607・0611	東都冬日會諸同聲宴鄭家林亭	得先字	貞元十七年(801)・洛陽	
		0608・0612	敘德書情四十韻上宣歙崔中丞	宣州薦送及第後重投此詩。	貞元十六年(800)・宣州	
		0610・0614	題故曹王宅	宅在檀溪。	貞元十八年(802)以前・襄州	
		0612・0616	酬哥舒大見贈	去年與哥舒等八人同登科第，今敘會散之愁意。	貞元二十年(804)・長安	
		0615・0619	春題華陽觀	觀即華陽公主故宅，有舊內人存焉。	永貞元年(805)・長安	
		0622・0626	寄陸補闕	前年同登科	永貞元年(805)・長安	
		0630・0634	自城東至以詩代書戲招李六拾遺	崔二十六先輩	元和元年(806)・長安	陳按：紹興本題下注當為詩題本文之漏刻，他本均為詩題本文。
		0631・0635	蓋屋縣北樓望山	自此後詩為畿尉時作	元和元年(806)・蓋屋	
		0634・0638	戲題新栽薔薇	時尉蓋屋⑪	元和二年(807)・蓋屋	
		0638・0642	醉中留別楊六兄弟	三月二十日別	元和二年(807)・蓋屋	
		0662・0666	早春獨游曲江	時為校書郎⑫	貞元十九年(803)・長安	



	0664・0668	涼夜有懷	自此後詩並未應舉時作	貞元十六年(800)以前	貞元二年前
	0665・0669	送武士曹歸蜀	士曹即武中丞兄	元和元年(806)・長安	貞元二年前
	0666・0670	江南送北客因憑徐州兄弟書	時年十五 <sup>⑬</sup>	貞元二年(786)	
	0669・0673	病中作	年十八	貞元五年(789)	陳按：或脫“年”字，原為“時年十八”。亦有宋人偽注之可能。
	0676・0680	江樓望歸	時避難在越中 <sup>⑭</sup>	貞元二年(786)・越中	貞元五年後
	0692・0696	臨江送夏瞻	瞻年七十餘	貞元十六年(800)以前	
	0693・0697	冬夜示敏叟	時在東都宅 <sup>⑮</sup>	貞元十六年(800)以前	
	0694・0698	客中守歲	在柳家莊	貞元十六年(800)以前	
卷十四	0705・0709	曲江獨行	自此後在翰林時作	元和三～五年・長安	
	0710・0714	禁中九日對菊花酒憶元九	元九云：“不是花中唯愛菊，此花開盡更無花。”	元和四年(809)・長安	
	0717・0721	重題西明寺牡丹	時元九在江陵 <sup>⑯</sup>	元和五年(810)・長安	
	0729・0733	獨酌憶微之	時對所贈蓋 <sup>⑰</sup>	元和五年(810)・長安	
	0737・0741	宴周皓大夫光福宅	座上作	元和三～六年・長安	
	0739・0743	惜牡丹花二首	一首翰林院北廳花下作，一首新昌寶給事宅南亭花下作。	元和三～六年・長安	陳按：據金澤本書入摺本注可知，此題注乃宋人改兩詩末注為題注。又，當作於元和五年。
	0753・0757	酬和元九東川路詩十二首	十二篇皆因新境，追憶往事，不能一一曲敘，但隨而和之，唯予與元知之耳。	元和四年(809)・長安	
	0763・0767	望驛臺	三月三十日	元和四年(809)・長安	
	0765・0769	答謝家最小偏憐女	感元九悼亡詩，因為代答三首。	元和四年(809)・長安	
	0771・0775	寄上大兄	已後詩在下邳村居作	元和六年(811)・下邳	
	0772・0776	病中哭金鑿子	小女子名	元和六年(811)・下邳	
0801・0805	王昭君二首	時年十七 <sup>⑱</sup>	貞元四年(788)	陳按：天海本校“江本無之”。	
卷十五	0804・0808	酬盧秘書二十韻	時初奉詔除贊善大夫 <sup>⑲</sup>	元和十年(815)・長安	
	0811・0815	重過秘書舊房因題長句	時為贊善大夫 <sup>⑳</sup>	元和十年(815)・長安	
	0828・0832	和元八侍御昇平新居四絕句	時方與元八卜鄰 <sup>㉑</sup>	元和十年(815)・長安	
	0841・0845	贈楊秘書巨源	楊嘗有贈盧洺州詩云：“三刀夢益州，一箭取遼城。”由是知名。	元和十年(815)・長安	
	0842・0846	和武相公感韋令公舊池孔雀	同用深字	元和十年(815)・長安	

	0858・0863	初貶官過望秦嶺	自此後詩江州路上作	元和十年 (815)・江州路	
	0859・0864	藍橋驛見元九詩	詩中云：“江陵歸時逢春雪。”	元和十年 (815)・江州路	
	0863・0868	紅鸚鵡	商山路逢	元和十年 (815)・江州路	
卷十六	0925・0931	憶微之傷仲遠	李三仲遠去年春喪	元和十一年 (816)・江州	
	0930・0936	紅藤杖	杖出南蠻	元和十一年 (816)・江州	
	0933・0939	寄蘄州單與元九因題六韻	時元九鰥居⑳	元和十一年 (816)・江州	
	0982・0988	醉中戲贈鄭使君	時使君先歸，留妓樂重飲。㉑	元和十二年 (817)・江州	
	0996・1002	聽李士良琵琶	人各賦二十八字	元和十二年 (817)・江州	
卷十七	1010・1016	送客春游嶺南二十韻	因敘嶺南方物以諭之，並擬微之送崔二十一之作。	元和十三年 (818)・江州	
	1014・1020	潯陽春三首	元和十二年作	元和十二年 (817)・江州	
	1017・1023	夢微之	十二年八月二十日夜	元和十二年 (817)・江州	
	1034・1040	劉十九同宿	時淮寇初破㉒	元和十二年 (817)・江州	
	1041・1048	答微之	微之於閬州西寺，手題子詩。予又以微之百篇，題此屏上。各以絕句，相報答之。	元和十二年 (817)・江州	
	1055・1062	贈曇禪師	夢中作	元和十三年 (818)・江州	
	1079・1086	送韋侍御量移金州司馬	時予官獨未出㉓	元和十三年 (818)・江州	
	1092・1099	潯陽宴別	此後忠州路上作	元和十四年 (819)・忠州路	
卷十八	1128・1136	和萬州楊使君四絕句・嘉慶李		元和十四年 (819)・忠州	陳按：天海本此詩題下小字書入“坊門名，專出好李也”。
		望郡南山	行簡		謝校：那波本、馬本、唐音統載作“望郡南山寄行簡”，誤為居易詩。陳按：當從那波本。
	1136・1144	寄微之	時微之為虢州長吏㉔	元和十四年 (819)・忠州	
	1156・1164	奉酬李相公見示絕句	時初聞國哀㉕	元和十五年 (820)・忠州	
	1157・1165	喜山石榴花開	去年自廬山移來	元和十五年 (820)・忠州	
	1182・1190	太平樂詞二首	已下七首，在翰林時奉教撰進。	元和二年 (807)・長安	
	1189・1197	殘春曲	禁中口號	元和二～五年 ・長安	
卷十九	1243・1251	寄山僧	時年五十㉖	長慶元年 (821)・長安	
	1244・1252	慈恩寺有感	時杓直初逝，居敬方病。㉗	長慶元年 (821)・長安	
	1273・1280	七言十二句贈駕部吳郎中七兄	時早夏朝歸，閑齋獨處，偶題此什。㉘	長慶二年 (822)・長安	

		1275・1282	龍花寺小主尼	郭代公愛姬薛氏，幼嘗爲尼，小名仙人子。	長慶二年(822)・長安	
	卷二十	1302・1309	宿陽城驛對月	自此後詩赴杭州路中作	長慶二年(822)・杭州路	
		1315・1322	題別達愛草堂兼呈李十使君	李亦廬山人，常隱白鹿洞。	長慶二年(822)・杭州路	謝校：題下注紹興本脫人字，《文苑英華》作“李十亦嘗隱居廬山白鹿洞”。
		1321・1328	初到郡齋寄錢湖州李蘇州	聊取二郡一哂，故有落句之戲。	長慶二年(822)・杭州	
		1397・1404	紫陽花	招賢寺有山花一樹，無人知名。色紫氣香，芳麗可愛，頗類仙物，因以紫陽花名之。	長慶四年(824)・杭州	
			1398・2194	郡齋旬假命宴呈座客示郡寮	自此後在蘇州作	寶曆元年(825)・蘇州
	格詩歌行雜體	1406・2202	霓裳羽衣曲	和微之	寶曆元年(825)・蘇州	
		1407・2203	小童薛陽陶吹簫樂歌	和浙西李大夫作	寶曆元年(825)・蘇州	
		1409・2205	題靈巖寺	寺即吳館娃宮，鳴屐廊、硯池、采香徑，遺迹在焉。	寶曆元年(825)・蘇州	
			白太守行	劉禹錫		謝校：馬本、汪本此詩在答詩後。陳按：疑此詩爲宋人混入。
		1448・2244	六年春贈分司東都諸公	時爲河南尹 <sup>①</sup>	大和六年(832)・洛陽	
		1449・2245	九日代羅樊二妓招舒著作	齊梁格	大和六年(832)・洛陽	
		1450・2246	憶舊游	寄劉蘇州	大和六年(832)・洛陽	
		1451・2247	答崔賓客晦叔十二月四日見寄	來篇云：“共相呼喚醉歸來。”	大和六年(832)・洛陽	
		格詩雜體	1454・2250	和晨霞	此後在上都作	大和二年(828)・長安
	1457・2253		何祝蒼華	蒼華，髮神名。	大和二年(828)・長安	
	1463・2259		和寄閻劉白	時夢得與樂天方舟西上 <sup>②</sup>	大和二年(829)・長安	
	1478・2274		授太子賓客歸洛	自此後東都作	大和三年(829)・洛陽	
	1484・2280		知足吟	和崔十八《未貧作》	大和三年(829)・洛陽	
	1505・2301		游坊口懸泉偶題石上	時爲河南尹 <sup>③</sup>	大和五年(831)・濟源	
	律詩	1514・2311	元微之除浙東觀察使喜得杭越鄰州先贈長句	十七首並與微之和答	長慶三年(823)・杭州	
		1521・2318	酬微之	微之題云：“郡務稍簡，因得整集舊詩，並連綴刪削，封章諫草，繫委箱笥，僅逾百軸，偶成自嘆，兼寄樂天。”	長慶三年(823)・杭州	
		1530・2327	答微之見寄	時在郡樓對雪 <sup>④</sup>	長慶四年(824)・杭州	
		1550・2347	聞歌妓唱嚴郎中詩因以絕句寄之	嚴前爲郡守	長慶四年(824)・杭州	
		1590・2387	題新居寄宣州崔相公	所居南鄰，即崔家池。	長慶四年(824)・洛陽	

卷二十四 （後集卷五十四）	1617・2414	答劉和州	禹錫	寶曆元年 (825)	謝校：金澤本所校管家本作“酬和州劉禹錫”，又小字“廿八員外見寄”。
	1670・2467	重答劉和州	來篇云：“蘇州刺史例能詩，西掖吟來替左司。”又云：“若共吳王斗百草，不如唯是欠西施。”	寶曆二年 (826)・蘇州	
	1695・2492	武丘寺路	去年重開寺路，桃李蓮荷，約種數千株。	寶曆二年 (826)・蘇州	
	1696・2493	齊雲樓晚望偶題十韻兼呈馮侍御周殷二協律	樓在蘇州	寶曆二年 (826)・蘇州	
	1697・2494	河亭晴望	九月八日	寶曆二年 (826)・蘇州	
	1713・2511	答次休上人	來篇云：“聞有餘霞千萬首，何方一句乞閑人。”	寶曆二年 (826)・蘇州	
卷二十五 （後集卷五十五）	1715・2513	思子臺有感二首	凡題思子臺者，皆罪江充。予觀禍胎不獨在此，偶以二絕辨之。	寶曆二年 (826)・蘇州	
	1746・2544	華城西北雄堞最高崔相公首創樓臺錢左丞繼種花果合為勝境題在雅篇歲暮獨遊悵然成詠	時華州未除刺史 <sup>⑤</sup>	大和元年 (827)・洛陽路	
	1749・2547	題噴玉泉	泉在壽安山下，高百餘尺，直寫潭中。	大和元年 (827)・洛陽路	
	1767・2565	寄殷協律	多敘江南舊遊	大和二年 (828)・洛陽	
	1790・2589	酬嚴給事	聞玉蕊花下有游仙絕句	大和二年 (828)・長安	
	1812・2612	寄答周協律	來詩多敘蘇州舊游	大和五年 (831)・洛陽	大和二年
卷二十六 （後集卷五十六）	1814・2614	贈悼懷太子挽歌辭二首	奉詔撰進	大和二年 (828)・長安	
	1818・2618	送陝州王司馬建赴任	建，善詩者。	大和二年 (828)・長安	
	1823・2623	宿裴相公興化池亭北	兼蒙借船舫遊汎	大和二年 (828)・長安	
	1852・2652	酬鄭侍御多雨春空過詩三十韻	次用本韻	大和三年 (829)・長安	
	1899・2699	五鳳樓晚望	六年八月十日作	大和六年 (832)・洛陽	
	1905・2705	憶夢得	夢得能唱竹枝，聽者愁絕。	大和六年 (832)・洛陽	
	1909・2709	戲答皇甫監	時皇甫監初喪偶 <sup>⑥</sup>	大和六年 (832)・洛陽	
卷二十七 （後集卷五十七）	1991・2801	題崔常侍濟上別墅	時常侍以長告罷歸，今故先報泉石。 <sup>⑦</sup>	大和六年 (832)・濟源	大和五年
	1994・2804	鉢塔院如大師	師年八十三，登壇秉律凡六十年，每歲於師處投入關戒者九度。	大和五年 (831)・洛陽	
	1995・2805	神照上人	照以說壇為佛事	大和五年 (831)・洛陽	
	1996・2806	自遠禪師	遠以無事為佛事	大和五年 (831)・洛陽	
	1997・2807	宗實上人	實即樊司空之子，舍官位妻子出家。	大和五年 (831)・洛陽	
	1998・2808	清閑上人	自蜀入洛，於長壽寺說法度人	大和五年 (831)・洛陽	

	卷二十八 (後集卷五十八)	2010・2819	酬別微之	臨都驛醉後作	大和三年 (829)・洛陽	大和五年
		2026・2835	獨游玉泉寺	三月三十日	大和四年 (830)・洛陽	大和六年
		2035・2844	戲和微之答竇七行軍之作	依本韻	大和四年 (830)・洛陽	大和六年
		2954・2863	哭皇甫七郎中	湜	大和四年 (830)・洛陽	大和六年
		2073・2882	府齋感懷酬夢得	時初喪崔兒，夢得以詩相安，云：“從此期君比瓊樹，一枝吹折一枝生。”故有此落句以報之。 <sup>㉞</sup>	大和五年 (831)・洛陽	
格詩 歌行 雜體	卷二十九 (後集卷六十二)	2135・2976	吟四難	雜言	大和八年 (834)・洛陽	
		2150・3001	洛陽春贈劉李二賓客	齊梁格	開成二年 (837)・洛陽	
格詩	卷三十 (後集卷六十三)	2178・3035	池上作	西溪、南潭，皆池中勝處也。	大和九年 (835)・洛陽	
		2185・3033	詠史	九年十一月作	大和九年 (835)・洛陽	
		2193・3045	酬牛相公宮城早秋寓言見示兼呈夢得	時夢得有疾 <sup>㉟</sup>	開成二年 (837)・洛陽	
律詩	卷三十一 (後集卷六十四)	2198・3052	六年冬暮贈崔常侍晦叔	時為河南尹 <sup>㊱</sup>	大和六年 (832)・洛陽	
		2213・3067	罷府歸舊居	自此後重授賓客，歸履道宅作。	大和七年 (833)・洛陽	
		2220・3074	和夢得	夢得來詩云：“漫讀圖書四十車，年年為郡老天涯。一生不得文章力，百口空為飽暖家。”	大和七年 (833)・洛陽	
		2265・3119	詵半開花贈皇甫郎中	八年寒食日，池東小樓上作。	大和八年 (834)・洛陽	
	卷三十二 (後集卷六十五)	2316・3170	哭崔二十四常侍	崔好酒放歌，忘懷生死，知疾不起，自為志文。	大和八年 (834)・洛陽	
		2322・3176	代林園戲贈	裴侍中新修集賢宅成，池館甚盛，數往游宴，醉歸自戲耳。	大和八年 (834)・洛陽	
		2336・3190	楊柳枝二十韻	楊柳枝，洛下新聲也。洛之小妓有善歌之者，詞章音韻，聽可動人，故賦之。	大和八年 (834)・洛陽	
		2359・3213	閑園獨賞	因夢得所寄蜂鷓之詠，引成此篇以和之。	大和九年 (835)・洛陽	
		2371・3225	寄楊六侍郎	時楊初授戶部，予不赴同州。 <sup>㊲</sup>	大和九年 (835)・洛陽	
		2372・3226	韋七自太子賓客再除秘書監以長句賀而餞之	往年嘗與予同為秘監	大和九年 (835)・洛陽	
		2374・3228	九年十一月二十一日感事而作	其日獨游香山寺	大和九年 (835)・洛陽	
	卷三十三 (後集卷六十六)	2405・3259	酬鄭二司錄與李六郎中寒食日相遇同宴見贈	二人並是同年	開成元年 (836)・洛陽	
		2417・3271	宿香山寺酬廣陵牛相公見寄	來詩云：“唯羨東都白居士，月明香積問禪師。”時牛相三表乞退，有詔不許。 <sup>㊳</sup>	大和九年 (835)・洛陽	開成元年

		2420・3274	初入香山院對月	大和六年秋作	大和六年 (832)・洛陽	陳按：題下注疑為後人竄入。此當為開成元年作。
		2432・3286	偶於維揚牛相公處覓得箏，箏未到先寄詩來走筆戲答	來詩云：“但愁封寄去，魔物或驚禪。”	開成元年 (836)・洛陽	
		2435・3289	奉酬淮南牛相公思黯見寄二十四韻	每對雙關，分敘兩意。	開成元年 (836)・洛陽	
		2458・3312	開成二年三月三日河南尹（中略）居易舉酒抽毫奉十二韻以獻	座上作	開成二年 (837)・洛陽	
		2463・3317	和裴令公南莊一絕	裴詩云：“野人不識中書令，喚作陶家與謝家。”	開成二年 (837)・洛陽	
		2470・3324	同夢得酬牛相公初到洛中小飲見贈	時牛相公辭罷揚州節度，就拜東都留守。 <sup>④③</sup>	開成二年 (837)・洛陽	
卷三十四 （後集卷六十七）		2480・3334	和東川楊慕巢尚書府中獨坐感成在懷見寄十四韻	慕巢感威度州弟喪逝，感己之榮盛，有歸洛之意，故敘而和之也。	開成二年 (837)・洛陽	
		2483・3337	閨吟贈皇甫郎中觀家翁	新與皇甫結姻	開成二年 (837)・洛陽	
		2485・3339	酬思黯戲贈	同用狂字	開成二年 (837)・洛陽	
		2486・3340	又戲答絕句	來句云：“不是道公狂不得，恨公逢我不教狂。”	開成二年 (837)・洛陽	
		2491・3345	戲答思黯	思黯有能箏者，以此戲之。	開成三年 (838)・洛陽	
		2492・3346	酬裴令公贈馬相戲	裴詩云：“君若有心求逸足，我還留意在名姝。”蓋引妾換馬戲，意亦有所屬也。	開成三年 (838)・洛陽	
		2502・3356	醉後聽唱桂華曲	詩云：“遙知天上桂華孤，試問嫦娥更有無。月宮幸有閑田地，何不中央種兩株。”此曲韻怨切，聽輒感人，故云爾。	開成三年 (838)・洛陽	
		2504・3358	奉和裴令公三月上巳日游太原龍泉憶去歲洛見示之作	依來體雜言	開成三年 (838)・洛陽	
		2512・3366	憶江南詞三首	此曲亦名謝秋娘，每首五句。	開成三年 (838)・洛陽	
		2531・3385	憑李睦州訪徐凝山人	凝，即睦州之民也。	開成三年 (838)・洛陽	
	2548・3389	酬夢得比萱草見贈	來篇云：“唯君比萱草，相見可愛。”	開成四年 (839)・洛陽		
卷三十五 （後集卷六十八）		2569・3423	歲暮病懷贈夢得	時與夢得同患足疾 <sup>④④</sup>	開成四年 (839)・洛陽	
		2576・3430	見敏中初到邠寧秋日登城樓詩，詩中頗多鄉思，因以寄和	從殿中侍御史出副邠寧	開成四年 (839)・洛陽	
		2592・3446	春盡日宴罷感事獨吟	開成五年三月三十日作	開成五年 (840)・洛陽	
		2616・3470	偶題鄧翁	公即給事中珽之子也，飢窮老病，退居此村。	開成五年 (840)・洛陽	
		2621・3475	山中五絕句	游嵩陽，見五物，各有所感。感興不同，隨興而吟，因成五絕。	開成五年 (840)・洛陽	
		2626・3480	自戲三絕句	閑臥獨吟，無人酬和，聊假身心相戲，往復偶成三章。	開成五年 (840)・洛陽	
		2630・3484	贈舉之僕射	今春與僕射三為寒食之會	會昌元年 (841)・洛陽	



半格詩律詩附	卷三十六 (後集卷六十九)	2634・3488	過裴令公宅二絕句	裴令公在日，常同聽楊柳枝歌，每遇雪天，無非招宴。二物如故，因成感情。	會昌元年 (841)・洛陽	
		2642・3496	偶吟自慰兼呈夢得	予與夢得甲子同，今俱七十。	會昌元年 (841)・洛陽	
		2646・3500	贈思黯	前以履新小灘詩寄思黯。報章云：“請向歸仁砌下看。”思黯歸仁宅，亦有小灘。	會昌元年 (841)・洛陽	
		2647・3501	聽都子歌	詞云：“試問嫦娥更要無。”	開成四～會昌二年	
		2648・3502	樂世	一名六么	開成四～會昌二年	
		2649・3503	水調	第五遍乃五言調，調韻最切	開成四～會昌二年	
		2650・3504	想夫憐	王維右丞詞云：“秦川一半夕陽開。”此句尤佳。	開成四～會昌二年	
		2651・3505	何滿子	開元中，滄州有歌者何滿子，臨刑，進此曲以贖死，上竟不免。	開成四～會昌二年	
	2655・3509	開成二年夏新蟬贈夢得	十年來常與夢得索居，同在洛下，每聞蟬，多有寄答，今喜以此篇唱之。	開成二年 (837)・洛陽		
	2666・3520	櫻桃花下有感而作	開成三年春李美周賓客南池者。	開成三年 (838)・洛陽		
	2674・3528	逸老	莊子云：“勞我以生，逸我以老，息我以死也。”	會昌元年 (841)・洛陽		
	2685・3539	夢上山	時足疾未平 <sup>④5</sup>	會昌二年 (842)・洛陽		
	2692・3546	送毛仙翁	江州司馬時作	元和十一～十三年・江州	陳按：題下注疑為後人竄入。此當為會昌二年後作。	
	2694・3548	春池閑泛	已下律詩	會昌元年 (841)・洛陽		
	2697・3551	宴後題府中水堂贈盧尹中丞	昔予為尹日創造之	會昌二年 (842)・洛陽	會昌元年	
	2698・3552	和敏中洛下即事	時敏中為殿中分司 <sup>④6</sup>	會昌元年 (841)・洛陽		
	2712・3571	喜入新年自詠	時年七十一 <sup>④7</sup>	會昌二年 (842)・洛陽		
	2726・3580	以詩代書酬慕巢尚書見寄	慕巢書中頗切歸休結侶之意，故以此答。	會昌二年 (842)・洛陽		
	2735・3589	池鶴八絕句	池上有鶴，介然不群，烏、鶩、雞、鵝次第嘲噪，諸禽似有所謂。鶴亦時復一鳴。予非治長，不通其意，因戲與贈答，以意斟酌之，聊亦自取笑耳。	會昌元～二年・洛陽	會昌二年	
2745・3599	客有說	客，即李浙東也。所說不能具錄其事。	會昌二年 (842)・洛陽			

＊附記 本稿屬於 JSPS 科研費 21K000327「慧萼鈔南禪院本『白氏文集（詩集）』の復元に關する文献の研究」研究成果。又，本稿寫成之後，有幸獲讀清華大學李成晴先生見示大稿《元白詩題的“應然”與“理校”》（《文獻》待刊稿），其文中也注意到了白詩題下“時字引起題注”這一現象，觀點與拙稿不謀而同，且李文還進一步指出了這種題注法不僅局限於元稹與白居易，當為唐人詩歌題注的一個固定格式。幸蒙李成晴先生高允，謹將其觀點先錄於此，以供一併參考。

## Concerning the Subnote “Time~”

-A study on the self-completion of the “*Bai-Shi Wen Ji*” (1) -

CHEN Chong

The paper is a part of the author’s recent relevant research achievement concerning “The Restoration of Hui E’s Manuscript on Bai Juyi’s Collected Works (Poetry) in Nanchan Temple”. Taking the *Collected Works of Bai Juyi* in Shaoxing of Southern Song Dynasty as the master copy, the author sorts out the annotates that were added to the titles of poems in the poetry collection (excluding the New Yuefu in Volume III and Volume IV) and presents them as a table for overall research and comprehensive analysis. The research shows that there exist many problems in these footnotes, such as the confusion between the poem title and its footnotes, the false notes by scholars of Song Dynasty, and the mixing between Bai Juyi’s poems and others’ poems. As these problems have not been probed, the confirmation of the total number of Bai Juyi’s poetry works and the chronological issues in previous researches deserve more effort to reexamine. In addition, due to the limited space, the paper will first attach the table of annotates that were added to the titles of poems in Bai Juyi’s poetry collection to the end, and then make a specific analysis of the confusion between the poem title and its footnotes, while other issues mentioned above will be left to be continued.